

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		学校・家庭・地域連携協力推進事業	担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと	計画期間	昭和48年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業(取組)	自主的な学習活動の支援と機会・場の提供	市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-05 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
社会が複雑・多様化し、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、学校が抱える課題も複雑化・困難化している。また、地域においては、地域社会のつながりが希薄化するなど、学校、家庭、地域がパートナーとして連携・協働する仕組みが不可欠となった。	小中学校とまちづくり協議会等が連携し、豊富な地域人材により子どもたちの学びを支えることを目的に設置した「もりやコミュニティ・スクールボランティアバンク」による人材発掘・人材活用を図り、引き続きシニア世代が学びの成果や技術、経験を発揮し、活躍できる場の提供に努める。 また、中学校区ごとに地域学校協働本部の整備を促進し、モデル事業により、地域住民等と学校をつなぐコーディネート機能、多様な活動の提供等について検証する。 家庭教育においては、市内保育所（園）、幼稚園、小中学校保護者等を対象に、家庭が本来果たすべき役割を見つめなおす機会となるよう、親の役割、子どもの心の理解など家庭での教育について考えを深めていく学習の場を提供するとともに保護者同士の交流を通して互いに支えあう関係づくりを目指す。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
未来を担う子どもたちの豊かな学びを支えていくため、学校・家庭・地域が連携し、三者それぞれが持つ教育機能を発揮するとともに互いに連携・協力しながら、各地域が持っている特色を十分に生かし、地域全体で子どもたちの健やかな成長を支援する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】地域の教育資源を掘り起こし、家庭の孤立化等の課題や、学校を取り巻く問題の複雑化・困難化に対して社会全体で対応することが求められている。 【課題】御所ヶ丘中学校区をモデル校区として、学校・家庭・地域が課題を共有し、知恵を出し合い、力を合わせて子どもたちの成長を体制づくりを進める必要がある。	実施済の活動内容 【コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進】 4月 御所ヶ丘中学校区地域学校協働活動推進員選定・委嘱 5月 御所ヶ丘中学校区学校運営協議会開催 愛宕中学校区学校運営協議会設立準備説明会開催 6月～ 地域学校協働活動実施協議 8～9月 地域学校協働活動実践 【家庭教育の推進】 5月～ 家庭教育講座開催（年8回）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	今後の活動内容
【コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進】学校・家庭・地域・行政が協力し、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みづくりに取り組む。 学校・地域が具体的な課題を出し合い、解決につながる実践活動を行う。 （地域学校協働活動の取組テーマ） ・学校・地域の防災力を高める。 ・職場体験受入事業所の増加を図る。	【コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進】 10月～ 地域学校協働活動実践 3月 御所ヶ丘中学校区学校運営協議会開催 【家庭教育の推進】 10月～ 家庭教育講座開催 11月 家庭教育講演会開催 定期的に活動する内容 「もりやコミュニティ・スクールボランティアバンク」による人材発掘・人材活用
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	御所ヶ丘中学区学校運営協議会については、令和5年度に設立準備会を発足し令和6年度に設置した。新たに愛宕中学区学校運営協議会について、令和6年度に設立準備会を発足し令和7年度に設置する予定であるため、委員報酬や会議費等が増加する。

R05年度の評価を受けて、R06年度を取組等	
R05年度を取組・評価・課題	R06年度を取組・評価・課題
令和6年度に御所ヶ丘中学校区においてコミュニティ・スクールを正式に設置するための準備会を発足した。 家庭教育については、子育て支援や親の役割等についての講座及び講演会を開催し、参加者の理解を深める機会となった。	御所ヶ丘中学校区地域学校協働活動本部防災グループ推進委員会においては、地域学校協働活動推進員が中心となり、令和7年度に地区内の全世帯及び各学校の児童・生徒に配付する「防災マップ」の作成準備に入った。 家庭教育については、市内保育所（園）、幼稚園、小中学校の保護者を対象に講座及び講演会を実施し、参加者同士の情報交換の機会を設けながら、子育て・子育てについて考える場を提供し、連携体制を整えることができた。 今後は多様なニーズへの対応と講座内容や形式の工夫が必要となる。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
地域学校協働本部設立数（校区）	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00	0.00	4.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
指標値の動向（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 向上</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 横ばい</div> <div><input type="checkbox"/> 低下</div>	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、学校と地域が共有する課題を解決するために地域学校協働活動を行う。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<div><input checked="" type="checkbox"/> 拡大</div> <div><input type="checkbox"/> 縮小</div> <div><input type="checkbox"/> 維持</div>	<div><input type="checkbox"/> 改善・効率化</div> <div><input type="checkbox"/> 統合</div> <div><input type="checkbox"/> 廃止・終了</div>	学校の運営や課題解決に向けて学校と地域が一体となる地域学校協働活動本部の整備を行う。 学校教育、文化や環境整備等の知識や技能を有する地域人材を「もりやコミュニティ・スクールボランティアバンク」への登録を促進する。					

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	8,403	47,124	330	793	653
	国・県支出金	0	6,715	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	36,723	0	0	0
	一般財源	8,403	3,686	330	793	653
正職員人工数（時間数）		319.00	2,950.00	569.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,230	12,402	2,416	0	0
トータルコスト		9,633	59,526	2,746	793	653

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		二十歳の記念式典事業	担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと	計画期間	昭和39年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業(取組)	自主的な学習活動の支援と機会・場の提供	市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-22 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 対象者による運営協力委員会を組織し、式典の運営や準備を行政と協働で進める。 会場設営業務及び駐車場整理業務を委託する。コロナ禍における開催の対応として、式典の様子をLIVE配信により保護者等に提供する。 〔開催日等〕 令和7年1月12日（日）（予定） 〔対象者〕 平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれの方 ※参考：令和6年成人式典 対象者数740人、内出席者数536人（出席率72.4%） 〔内容〕 成人式典、運営協力員主催イベント（予定）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
20歳の節目を祝福し、大人としての義務と責任を改めて自覚してもらうとともに、20歳同士の交流を深め、郷土を誇りに思う心を育む。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
<p>【現状・問題】 記念品について、昨年は11月に送付する案内状に申請方法を記載し、市公式サイトやSNSで周知したが、申請期間が1か月間しかなかったため、周知が十分でなく、締切までに手続きができない対象者がいた。</p> <p>【課題】 申請を促すお知らせや申込期間を周知するなど、多くの対象者に行き渡るよう周知方法を改善する必要がある。</p>	<p>実施済の活動内容</p> <p>7月～ 運営協力員募集</p> <p>8月31日 運営協力員会議</p> <p>今後の活動内容</p> <p>10月～ 記念品申請周知</p> <p>1月7日 記念品申請締め切り</p> <p>1月10日 会場設営</p> <p>1月11日 リハーサル</p> <p>1月12日 二十歳の記念式典</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>申請開始の1か月前（10月）から市公式サイトで記念品申請について事前申請が必要なことを周知する。</p> <p>式典中はサポートデスクを出し、事前申請できなかった参加者へ当日中の申請に限り対応する。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input type="checkbox"/>増加</p> <p><input type="checkbox"/>維持</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>削減</p>	<p>恒例の式典のため、事業内容が大きく変わることはない。令和8年度以降に向けて若者の嗜好の多様化に対応し記念品の廃止等を検討する。</p>

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
記念品について、令和５年度は11月に送付する案内状に申請方法を記載し、市公式サイトやSNSで周知したが、申請期間が1か月間しかかったため、周知が十分でなく、締切までに手続きができない対象者がいた。申請を促すお知らせや申込期間を周知するなど、多くの対象者に行き渡るよう周知方法を改善する必要がある。	手続きの予告（周知）は10月から公式サイト上で行った。周知方法だけでなく、申請期限を延ばすための工夫をした。 令和5年度の記念品申請期間が短かったのは、式典当日に記念品と同時に配信していた記念冊子の配信予約締切が早かったためだったので、令和6年度の記念冊子は配信ではなく会場でのQRコード配布に変更した。 記念品は式典5日前まで申請締切を延ばし、結果、配布件数が68件増え、申請漏れの問合せはあったが苦情はなかった。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
対象者に対する参加者の割合（％）	63.10	68.39	70.10	71.37	73.14	0.00	70.00
式典参加者数（人）	453.00	502.00	516.00	536.00	572.00	0.00	550.00
指標値の動向（→その理由）							
<div><input checked="" type="checkbox"/> 向上</div> <div><input type="checkbox"/> 横ばい</div> <div><input type="checkbox"/> 低下</div>	出生数が前年より増加したため対象者数も増加した。周知方法は引き続きHP及び葉書送付となる。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 拡大</div> <div><input type="checkbox"/> 縮小</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 維持</div>	<div><input type="checkbox"/> 改善・効率化</div> <div><input type="checkbox"/> 統合</div> <div><input type="checkbox"/> 廃止・終了</div>	成人式を祝う式典は、大人として社会の一員になる節目を祝う重要な行事です。式典を通じて地域や家族、社会から祝福を受けることで、自己肯定感や責任感を育み、より良い社会参加を促す役割があるため、今後も継続して行う。					

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	2,679	2,624	1,005	4,569	4,569
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,679	2,624	1,005	4,569	4,569
正職員人工数（時間数）		318.00	664.00	60.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,226	2,791	255	0	0
トータルコスト		3,905	5,415	1,260	4,569	4,569

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		公民館運営管理事業	担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと	計画期間	昭和56年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業(取組)	自主的な学習活動の支援と機会・場の提供	市民協働	企画立案への参画
予算科目コード		01-100404-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市立公民館の設置及び管理に関する条例

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民のコミュニケーション及び生涯学習の場を提供するため、昭和56年に中央公民館、平成4年に郷州公民館、平成8年に高野公民館、平成11年に北守谷公民館を開館した。 平成24年度からは指定管理者制度を導入し、間事業者が有するノウハウを活用した施設の管理運営を開始した。	指定管理者による施設の管理運営を行い、適正かつ確実なサービスが提供されているか、サービスの安定的・継続的な提供が可能な状態にあるかなどを確認するための月次報告の提出に加え、現地調査、管理運営状況の評価等を行うモニタリングを実施し、必要に応じて改善に向けた指導・助言を行う。 今後においても、引き続き、公共施設予約システムの利用を促進し、使用者の利便性向上を図る。 また、公民館指定管理者制度第4期目の導入に当たり、書類審査及び面接審査を実施し、令和7年度以降の指定管理者候補者を選定する。 [指定管理者] アクティオ株式会社・守谷市シルバー人材センター 共同事業体 [今期指定期間] 令和2年4月1日～令和7年3月31日 5年間
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
多様化・高度化する市民の学習ニーズに対し、幅広い年齢層に学習機会の提供を行い、利用者が安全で快適に学習活動や趣味活動等ができる場所を提供する。 指定管理者による管理運営により、市民ニーズに効果的、効率的に対応し、民間能力の活用とサービス向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】エレベーター、自動ドアや消防設備等施設・設備の法定点検で指摘された事項は、その都度、改善しなければならない。 【課題】特に、中央及び高野公民館において設備不良が増加傾向にあるため、修繕等だけではなく、設備更新や強化に努める必要がある。 公民館指定管理者制度第4期目の導入に当たり、書類審査及び面接審査を実施し、令和7年度から10年間の指定管理者を選定する。	実施済の活動内容 【施設維持管理】 ～5月 繰越事業完了（各種修繕工事） 【指定管理者公募】 4～5月 第4期指定管理者募集要項作成 6月～ 指定管理者公募 8月 第1回指定管理者選定委員会 今後の活動内容 【施設維持管理】 10月 施設不良箇所調査 11月中旬 次年度修繕計画（優先順位決定） 2月 利用者アンケート実施 3月末 アンケートまとめ 【指定管理者公募】 10月 第2回指定管理者選定委員会（書類審査） 第3回指定管理者選定委員会（プレゼンテーション審査） 定期的に活動する内容 指定管理者モニタリング（月次ミーティング） 施設維持管理（修繕等）
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
【施設維持管理】中央・郷州・高野・北守谷公民館について、個別計画に沿って、建物及び設備の保全を進めていくと同時に、特殊建築物定期調査報告の指摘事項を精査するなど、改善計画を作成し適切に施設整備事業を進めていく。 【指定管理者による施設運営】引き続き、サービス向上に向けたモニタリングを行うとともに、利用者の声を館運営に反映させるため、指定管理者との月次ミーティングを通して、改善に取り組む。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	高野公民館 ・和室エアコン2台交換工事（30年経過）・多目的ホール排煙窓機器交換工事（開閉稼働不良） ・駐車場アスファルト舗装工事（整地不良） 中央公民館 ・調理室流し台、コンロ台交換工事 ・外灯改修工事

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
指定管理者の企画・運営により、コロナ禍に実施できなかった人気講座を復活・増設し、同じ趣味・志向を持つ市民相互の交流と仲間づくりの場を提供した。 高野公民館駐車場の不足に対応するため、近接地を借用し、駐車場新設工事（18台増設）を行った。 公共施設予約システムの利用を促進し、使用者の利便性向上に努めた。	郷州公民館改修工事が竣工し、エレベーターを増築したことなどもあり、更に多くの方に利用される公民館を目指していく。 中央、高野、郷州の三公民館においては利用者及び勤務者の安全確保のために防犯カメラの設置を行った。改修中の北守谷公民館においても改修工事内での設置を行い安全性の向上に努める。 また、指定管理者選考委員会にて、令和7年度以降の指定管理者候補者が変更となることが決定し、新たな指定管理者と更に魅力のある公民館事業を行っていく。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
延べ利用者数（4館）（人）	74,083.00	105,496.00	166,634.00	179,413.00	142,138.00	0.00	209,000.00
公民館講座に満足している参加者の割合（％）	96.70	96.80	96.80	98.40	98.40	0.00	98.00
指標値の動向（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 向上</div> <div><input type="checkbox"/> 横ばい</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 低下</div>	令和6年度には改修工事により郷州公民館及び北守谷公民館の2館で一部休館を行っていることから、延べ利用者は減少している。今後も市民・団体の自主的活動の拠点として、多くの人が集う場の提供、講座事業等の満足度向上に努める。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 拡大</div> <div><input type="checkbox"/> 縮小</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 維持</div>	<div><input type="checkbox"/> 改善・効率化</div> <div><input type="checkbox"/> 統合</div> <div><input type="checkbox"/> 廃止・終了</div>	指定管理者による管理運営を継続し、市民が求める講座等の実施、備品調達等、市民サービスの向上に努める。令和7年度以降の指定管理者候補者が「特定非営利法人日本スポーツ振興協会」に選定され、更なる制度活用及び、指定管理者の自主事業による収益創出を見込んだ提案を求め、管理経費の縮減を目指す。					

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	147,142	137,205	140,399	155,459	168,406
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	10,930	1,050	8,411	492	492
	一般財源	136,212	136,155	131,988	154,967	167,914
正職員人工数（時間数）		1,229.00	636.00	1,088.00	0.00	0.00
正職員人件費		4,739	2,674	4,620	0	0
トータルコスト		151,881	139,879	145,019	155,459	168,406

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		図書館運営管理事業		担当課 中央図書館
総合計画	政策	ひと		計画期間 平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進		種別 任意の事務
	基本事業(取組)	自主的な学習活動の支援と機会・場の提供		市民協働
予算科目コード		01-100405-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市図書館等の設置及び管理に関する条例

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民の知的要求に応える学習拠点として、平成7年度に開館した。	図書や電子資料の収集及び提供、A D E A C（デジタルアーカイブ）の公開により、幅広い図書や情報を提供する。 第四次守谷市子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会や子ども向けのイベントを開催するとともに、魅力ある図書を収集し、読書の楽しさを伝えることにより豊かな心を育む読書環境を整備する。 ボランティアの育成と支援に継続的に取り組むとともに、講演会、講座及び行事の開催等により、市民の生涯にわたる学びを支える。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民が必要とする図書や情報をいつでも容易に取得できるよう、資料の充実を図る。 未来を担う子ども達が、読書に親しみ豊かな心を育むことができる読書環境の充実を図るとともに、学校との連携の下、児童・生徒の学習活動を支援する。 また、市民との協働の下、生涯にわたる学びを支える機会と場を提供する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
中央図書館大規模改修工事着工に当たり、R7.8.25から休館する。休館中の本事業によるサービス低下を補う必要がある。	R7.1月 中央図書館の臨時窓口開設について検討開始 4月 ・北守谷公民館図書室臨時窓口の継続 4～6月 ・中央図書館リニューアルに向けた配架計画策定のための会議を実施 ・中央図書館臨時窓口開設のための予算化準備(6月議会に補正予算上程) 7月 配架計画策定 中央図書館臨時窓口開設の周知 8月 8/25～中央図書館休館 公民館図書室へ、新聞・雑誌の一部を移設 9月 中央図書館臨時窓口開設準備 → 9/6開設 北守谷公民館図書室のリニューアル準備 図書館システムの再設置 資料を保管場所から移送 資料を書架へ配架 蔵書点検作業 臨時窓口の閉鎖 10月 北守谷公民館図書室リニューアルオープン
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
R7.9.6からアワーズもりや3階に、予約資料の受渡し、貸出資料の返却、延長・再貸出等を行うことができる、守谷駅東中央図書館臨時窓口を開設した。 また、図書館の館内でのみ閲覧可能な、各種新聞・雑誌の最新号について、中央公民館図書室を中心に、各公民館に振分けて配置した。更に、市民から要望の多かった、図書館休館中の学習スペースの確保については、中央公民館2階の学習コーナーに、図書館の机と椅子を配置して座席数の増加に努めた。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	大規模改修工事による休館は、令和9年1月末までを予定しており、経常経費においては令和7年度並みとなる見込である。しかしながら、休館日や開館時間について再検討し、人件費等のコスト削減に努める。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
郷州公民館の改修工事による休館に伴い、10月から臨時窓口を開設し、予約資料の受渡し及び貸出資料の延長処理等を実施したが、貸出数は通常期の1/4程度であったため、図書館を含めた全体の貸出数が減少し、資料回転率も下がる結果となった。	図書資料11,962冊、視聴覚資料354点、雑誌319タイトル、新聞53種、電子図書221タイトルを収集するとともに、電子雑誌閲覧サービスの提供を継続した。また、ADEAC（デジタルアーカイブ）においては、『もりやの自然誌』を公開し、公開メニューの拡充を図った。 郷州公民館図書室のリニューアルにおいては、高書架の割合を増やすことで収容力を高めたり、室内の閲覧環境の向上を図ることにより、利用促進に努めた。北守谷公民館の改修工事による休館に伴い、10月から文化会館内に臨時窓口を開設した。 年度をとおして1つの公民館が休館であった影響により、図書館を含めた全体の貸出数及び資料回転率が昨年度を下回る結果となった。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
市民一人当たり蔵書数（蔵書総数÷人口数）（点／人）	6.70	6.60	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50
蔵書回転数（貸出総数÷蔵書総数）（回／点）	1.80	2.10	2.10	2.00	1.90	1.70	1.80
指標値の動向（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 向上</div> <div><input type="checkbox"/> 横ばい</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 低下</div>	年度の前半は郷州公民館図書室、後半は北守谷公民館図書室が、公民館大規模改修工事による休館のため臨時窓口の運営になったことにより、個人資料貸出総数が減少し、蔵書回転数が0.1ポイント下がった。しかしながら、中央図書館の年間来館者数は、令和5年度の259,814人に対し、274,876人となり、大幅に増加した。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 拡大</div> <div><input type="checkbox"/> 縮小</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 維持</div>	<div><input type="checkbox"/> 改善・効率化</div> <div><input type="checkbox"/> 統合</div> <div><input type="checkbox"/> 廃止・終了</div>	令和7年8月25日から令和9年1月末(予定)の期間、大規模改修工事による長期休館を予定しているが、公民館図書室の利用拡充や中央図書館の臨時窓口開設等により、市民サービスの維持に努める。また、リニューアル後は、DXを推進することにより、図書館利用における利用者の利便性向上を図るとともに、会話を楽しみながら休憩できるマルチパーパスの設置、照明のLED化やトイレの全面改修等により、快適な滞在空間を提供することに努め、資料・情報の提供の充実のみならず、来館者数の増加を目指す。					

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	118,833	123,278	125,479	112,648	125,500
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	193	488	570	42	10
	一般財源	118,640	122,790	124,909	112,606	125,490
正職員人工数（時間数）		8,571.00	8,560.00	9,243.00	0.00	0.00
正職員人件費		33,050	35,986	39,246	0	0
トータルコスト		151,883	159,264	164,725	112,648	125,500

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		学校図書館活動推進事業		担当課 中央図書館
総合計画	政策	ひと		計画期間 令和元年度～
	施策	生涯学習の推進		種別 任意の事務
	基本事業(取組)	自主的な学習活動の支援と機会・場の提供		市民協働
予算科目コード		01-100405-02 単独	根拠法令・条例等	学校図書館法

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 読書センターとしての機能を充実させるため、図書館資料の活用が図られるよう、団体貸出や学校間相互協力を促進する。 学習センターとしての機能を充実させるため、学校図書館を活用した授業づくり等を実施できるよう、学校司書が資料提供やブックトーク等により授業支援を行う。 情報センターとしての機能を充実させるため、図書館とのネットワークを活用し、電子図書や情報の利活用を促進する取組を実施する。 学校図書館担当職員及び統括学校司書が、学校司書の業務を支援するとともに、研修を実施し専門性を向上させる。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が、生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
①学校図書館蔵書管理システム及び機器のリース契約満了に伴い、新システム導入とぼけっと図書館（タブレット版）を全小中学校に導入する。ぼけっと図書館の導入により、児童生徒が自分のタブレットから自校の蔵書の検索ができるようになる。現在、学校図書館の端末は1台で、貸出・返却を行っており、児童生徒が思うように図書の検索ができない現状があった。このため学校図書館から検索専用の端末の導入を希望されていた。 ②中央図書館の大規模改修による閉館に伴い、閉館期間中の学校への団体貸出を検討する必要がある。	実施済の活動内容 5月 学校長・司書教諭に新システムの概要等を説明 6月 学校司書に新システムの説明 7月 図書データの抽出作業を実施 8月 パソコン等機器の入替・設定作業 司書教諭への新システム・ぼけっと図書館の説明会 学校司書に対する新システム操作研修会 児童生徒の情報入力 9月 新学校図書館蔵書管理システム運用開始 校長会、教頭会、教務主任会にぼけっと図書館導入について説明 ぼけっと図書館の導入マニュアルの作成・配布 希望する学校には訪問し導入のサポートを行う 10月 ぼけっと図書館運用開始 中央図書館閉館中の学校への貸出パックの内容を項目化、リストを作成する 12月 貸出パックの運用に関する計画書を作成
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
①新学校図書館蔵書管理システム及びぼけっと図書館の導入に向けて、学校への詳細な説明と導入に至るサポートを行う。特に、ぼけっと図書館を導入することで、児童生徒が自分のタブレットから自校の蔵書を検索することができるようになる。 ②閉館中の学校への団体貸出用パックの作成を検討する。作成にあたってのリスト化と、その貸出・運用について計画する必要がある。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	中央図書館の令和7年度からの大規模改修による閉館に伴い、団体貸出等の中央図書館の図書の貸出ができなくなることを受け、ぼけっと図書館から中央図書館の電子図書館にリンクできるよう、設定の追加を行う。これにより、児童生徒の一層の読書推進の向上を図る。このためコストは増加することが予測される。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
<p>団体貸出(2,365冊)や学校間相互協力(160冊)を促進するとともに、図書館職員により、年間35回ブックトークを実施した。</p> <p>学校司書の技術向上のため外部講師を招き、蔵書管理(除籍)について研修を実施した。また、企業が開催するブックフェアに参加し、実際に図書の現物を手に取り内容を確認することでより良い選書に繋がった。</p> <p>中学生の読書アンケート実施により、現在の中学生の読書傾向や好む分野等の情報を把握し、中学生がより親しみを持つ選書の手がかりを得た。また中学校図書館にも情報を共有することで、学校図書館の活用に繋がった。</p>	<p>学校図書館の蔵書管理システム契約更新に際し、クラウド型の専用WEBシステムを新たに導入し、インストールに係る諸費用が不要となった。また、図書の発注・納品後の作業で図書データの一括登録が可能となり、図書登録の時間削減につながった。さらに、使用するパソコンを、デスクトップパソコンから一律ノートパソコンに変更したため、経費の削減につながった。</p> <p>「タブレット版ぼけっと図書館」を導入し、児童生徒が所持するタブレット端末で、図書室に行かずとも自校の蔵書情報にリアルタイムでアクセスできるようになった。さらに、図書検索、ランキング等が連動して表示されるため、タブレットで読書の記録を簡単に行うこと</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
貸出点数（点）	187,897.00	197,013.00	279,941.00	292,380.00	278,448.00	250,000.00	250,000.00
学校図書館図書標準の達成学校数（小・中学校合計13校中）（校）	8.00	11.00	10.00	11.00	12.00	12.00	13.00
指標値の動向（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 向上</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 横ばい</div> <div><input type="checkbox"/> 低下</div>	<div>学校図書館の年間貸出数は、昨年度より減少した。これは、昨年度夏休み期間中に学校図書館システムの入替作業を行ったため、全校で夏休み前の図書の貸出ができなかった経緯がある。しかし、他の月の貸出数は全体的に増加している。</div> <div>学校図書館資料の充実を図るため、充足率を考慮した資料費の配分を実施し、学校図書館図書標準の達成学校数が12校となった。</div> <div>ブックトークにおいては年間35回から7回増加し、学校への周知が浸透してきた結果が出ている。</div>						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 拡大</div> <div><input type="checkbox"/> 縮小</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 維持</div>	<div><input type="checkbox"/> 改善・効率化</div> <div><input type="checkbox"/> 統合</div> <div><input type="checkbox"/> 廃止・終了</div>	<div>中学生の読書率の低下を改善するため、令和6年度から運用開始した「タブレット版ぼけっと図書館」から、守谷市電子図書館にアクセスできるようにする。このため、既存の中央図書館システムとの連動・調整を令和7年度内に行い、令和8年度からの利用可能を目指す。</div>					

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	30,793	31,789	34,742	40,350	40,350
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	72	0	0
	一般財源	30,793	31,789	34,670	40,350	40,350
正職員人工数（時間数）		1,817.00	1,178.00	1,078.00	1,180.00	1,180.00
正職員人件費		7,006	4,952	4,577	0	0
トータルコスト		37,799	36,741	39,319	40,350	40,350

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		中学校部活動地域移行推進事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと		計画期間	令和 6年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業(取組)	自主的な学習活動の支援と機会・場の提供		市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-12 補助	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成30年3月、国から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示され、地域との連携を含む学校部活動の見直しが言及された。これを受け、県が策定した「部活動の運営方針」をもとに、令和5年1月から休日の中学校部活動地域移行の実証事業を開始した。	愛宕中学校をモデル校としてスタートした実証事業を拡大し、全中学校における休日の中学校部活動管理運営業務を一般社団法人守谷市スポーツ協会に委託し、20部活動を目安に、主たる指導者となり得る地域人材を配置するとともに、新たな種目を体験する機会を提供する。 また、国・県の動向を踏まえて、地域指導者の確保及び育成に努めるとともに、受け皿となる地域クラブ設立、活動場所の確保や保護者負担の在り方などの課題に取り組む。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
国（スポーツ庁・文化庁）が示す令和5年度から令和7年度の改革推進期間を目途に、教職員の働き方改革を推進するとともに、子どもたちがスポーツ・文化等、一人一人のニーズや志向に応じて活動を選び、自主的・自発的に参加でき、安心・安全に活動できる環境づくりに取り組む。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】全中学校における休日の中学校部活動管理運営業務を一般社団法人守谷市スポーツ協会に委託し、今年度は20部活動の地域移行を目指しているが、指導者や現場責任者等の人材確保が難しい状況にある。 【課題】新たな人材の確保と限りのある人材の中での効率的な運営を行うことが必要となる。学校部活動と協調し、生徒・保護者との関わり方や安全管理など、指導者として必要なスキルを習得してもらう必要がある。	実施済の活動内容 4月 スポーツ協会へ業務委託 5月・地域スポーツクラブ「MSCC（守谷スポーツ文化クラブ）」設置 ・部活動の地域移行に関する保護者説明会開催 6月 学校・地域指導者間情報共有アプリ利用開始 7月 地域部活動運営協議会開催 8～9月 地域指導者による休日指導拡大 今後の活動内容 10～12月 クラウドファンディング実施
改善内容（課題解決に向けた解決策）	定期的に活動する内容 部活動の地域移行に関する保護者説明会開催 現場責任者・指導者等の雇用 地域指導者養成講習会の開催
【地域指導者養成講習会の開催】 指導者の養成とスキルアップのために地域指導者を養成する講習会を開催する。 【クラウドファンディングの実施】 魅力あるクラブ活動や人材確保の財源として、試験的にクラウドファンディングによる資金集めを実施する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	中学校部活動の地域移行を推進し、子どもたちが将来にわたり継続してスポーツ・文化活動に親しむことができるよう、今年度と同等規模で学校と地域が協働・融合した環境づくりを進める。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
国が示す令和5年度から令和7年度の改革推進期間を目途に、教職員の働き方改革を推進するとともに、子どもたちがスポーツ・文化等、一人ひとりのニーズや志向に応じて活動を選び、土・日は地域で活動ができる環境を整える。	市内4中学校全52部活動のうち、20部活動における休日の部活動運営を一般社団法人守谷市スポーツ協会に委託し、地域クラブ活動に位置付け、地域指導者による指導を行った。また、指導者として必要な知識や技能を身に付けるため、指導者養成講習会を複数回開催し、質の向上を図った。 ふるさと納税を活用したクラウドファンディングにより、全国に呼びかけ、事業にかかる財源確保を行った。 既存部活動全てに地域指導者を配置することは困難である。また、レベルの高い指導者の確保は更に困難な状況にある。改革推進期間終了後（令和8年度以降）の新たな地域展開を見据えたロードマップを作

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
休日の部活動を地域移行した割合（％）	0.00	0.00	5.77	23.00	38.40	0.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
指標値の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	全52部活動（運動部42部・文化部10部）のうち、20部活動（全て運動部）の休日活動に地域指導者を配置した。（令和5年度:12部活動、令和6年度:8部活動） 1部活動につき複数指導者を配置することが望ましいため、指導者の確保が地域展開の最大のポイントとなる。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	今後、学校単位の部活動が基本であり、その延長上に地域クラブがあるという考え方を見直し、指導者を地域（学校外）から確保することにとらわれず、希望する教職員の兼職兼業により指導者を確保したり、指導者のみならず、活動中の安全管理や連絡調整を行うスタッフを複数人確保するなど、将来を見据えた地域クラブの在り方を検討する。 改革推進期間終了後の令和8年度以降は、地域クラブ運営経費（指導者謝金、傷害保険料、遠征費等）に応じた一部受益者負担が生じる予定である。支援を要する世帯への対応や、新たな地域クラブ立ち					

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	0	0	40,541	70,154	71,000
	国・県支出金	0	0	17,534	3,570	3,570
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	10,094	10,000
	一般財源	0	0	23,007	56,490	57,430
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	1,107.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	4,700	0	0
トータルコスト		0	0	45,241	70,154	71,000

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		中央図書館大規模改修事業		担当課 中央図書館
総合計画	政策	ひと		計画期間 令和 6年度～令和 8年度
	施策	生涯学習の推進		種別
	基本事業(取組)	自主的な学習活動の支援と機会・場の提供		市民協働
予算科目コード		01-100405-04	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
建築から概ね30年が経過し、施設の経年劣化や機能低下が著しいことから、個別計画に基づき、令和7年度から大規模改修工事に着手する。	令和6年度に基本設計・実施設計業務を実施した後、令和7年度から8年度にかけて大規模改修工事を実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
老朽化した施設・設備の更新に加え、利用者ニーズを十分に反映した新たな空間・機能を備えた快適で魅力ある図書館への転換を図り、施設全体の機能等の向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】 令和6年4月から基本設計業務を開始した。その過程において、市民参加型ワークショップ(全3回)を開催し、そこで頂いた意見を反映させた「守谷中央図書館大規模改修工事基本設計概要(案)」を作成した。その後、基本設計概要案に対するパブリックコメントを実施(10/11まで)している。 【課題】 昨今の資材費及び人件費などの高騰により、プロポーザル実施時の工事予定額より増加することが予想される。	4月 基本設計業務開始 5月 第1回市民参加型ワークショップ開催 6月 補正予算要求（拡張部の地質調査、建築確認申請等手数料） 第2回市民参加型ワークショップ開催 7月 第3回市民参加型ワークショップ開催 設計事業者より基本設計概要(案)提出 8月 基本設計概要(案)の決定及びパブリック・コメントの実施について政策経営会議に付議 定例教育委員会及び図書館協議会に報告 9月 全協報告 パブリックコメント実施（9月12日～10月11日） 10月 パブリック・コメントの結果について政策経営会議に付議 定例教育委員会及び図書館協議会に報告 11月 全協報告 12月 補正予算要求（増築部土地購入費） 3月 基本設計・実施設計業務完了 9月 改修工事請負業者の議会承認
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
(改修メニューの見直し) 改修メニューの中で、更新不要なものがないか再度見直し、工事費の削減を図る。 (財源の確保) 森林環境贈与税（家具類）やクラウドファンディングの導入を検討し、財源を確保する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	大規模改修工事の本工事及び工事管理業務を実施する予定であるため。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
	<p>基本設計業務を4月に開始し、その過程において、市民参加型ワークショップ（計3回）を開催し、市民意見を反映させた基本設計概要(案)を作成した。その後、基本設計概要(案)の決定に伴うパブリックコメントを実施し、建物の老朽化対策や利便性向上を重視した基本設計概要を完成させ、実施設計業務を9月から開始した。実施設計においては、基本設計を基に具体的な施工図や工程計画の作成、予算や工期の調整を行い、3月末に実施設計図書を完成させた。</p> <p>基本設計開始から実施設計完了までの期間において、中央図書館職員及び管財課職員（技術職）、設計業者の三者で、計16回の設計打合せを実施した。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
工事進捗率（％）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
指標値の動向（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/>向上 <input type="checkbox"/>横ばい <input type="checkbox"/>低下</div>							
今後の事業の方向性（→その理由）							
<div><div><input type="checkbox"/>拡大 <input type="checkbox"/>縮小 <input checked="" type="checkbox"/>維持</div><div><input type="checkbox"/>改善・効率化 <input type="checkbox"/>統合 <input type="checkbox"/>廃止・終了</div></div>	令和7年8月に工事請負の入札、9月に議会承認を経て工事着工予定である。令和7度から8年度にかけて工事を実施し、令和8年11月末完了を目指し、令和9年1月からのリニューアルオープンを目標とする。						

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	0	0	45,050	729,749	974,205
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	511,000	0
	その他	0	0	45,050	218,749	0
	一般財源	0	0	0	0	974,205
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	1,029.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	4,369	0	0
トータルコスト		0	0	49,419	729,749	974,205

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		スポーツ・文化振興奨励事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと		計画期間	平成14年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業(取組)	スポーツを楽しむ環境づくり		市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100401-17 単独	根拠法令・条例等	守谷市スポーツ・文化振興奨励金交付要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 「守谷市スポーツ・文化振興奨励金交付要綱」に基づき、スポーツ又は文化で全国大会出場の功績をあげた個人又は団体に対して記念品と奨励金を交付し、栄誉を讃える。 [交付対象]要綱で規定する全国大会、アジア選手権大会、世界選手権大会、オリンピック・パラリンピック等文部科学省等が主催又は後援する全国規模以上のコンクール、国際コンクール等
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
スポーツ及び文化の振興を図り、市民の健康づくりと文化意識の高揚に寄与する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】中央競技団体以外が主催で行っている大会（要綱で定められている対象以外と考えられる大会）出場について、申請や問い合わせが増えており、確認が難しく、審査に苦慮している。 【課題】競技によっては中央競技団体に加盟していない競技もあるため、申請者・受付者が共に対象大会を確認できる仕組みが必要となる。	定期的に活動する内容 全国大会等出場による対象者からの奨励金申請の受領、審査、交付決定、授与式開催を実施。 3か月ごと授与者周知、制度案内（広報紙・HP）
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
中央競技団体にヒアリングを行い、主要大会を把握するとともに、競技別に対象となる大会のチェックリストを作成し、担当者が変わっても容易に判断できるようにする。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	奨励金対象者へ記念メダルを作成している。現在年150個を発注しているが件数が年々増えているため、メダル発注数を増やす必要があるため、交付基準の見直しを検討する。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
世界大会出場者（ラグビー）、全国大会優勝等（守谷高校剣道部・陸上部個人）を称え、守谷駅及び市役所庁舎に横断幕、懸垂幕を掲げました。市内外に市民の活躍を周知することができた。 すべての対象者に交付できるよう引き続き広報等で周知していく。	取組・評価 守谷市スポーツ少年団の内、計4団体が全国大会へ出場し、奨励金の交付をしました。（ミニバスケットボール、ハンドボール、ソフトボール、少林寺拳法） 全国大会出場者へ奨励金及びメダルを交付する授与式を行い、栄誉を称えた。 交付者を複数回に分けて広報で紹介し、制度の周知と活用を促した。 課題 交付要綱で定めている対象大会に該当するか否かの判断が難しい大会

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
交付者数（スポーツ）（人）	23.00	119.00	156.00	116.00	186.00	0.00	180.00
交付者数（文化）（人）	1.00	2.00	4.00	6.00	9.00	0.00	10.00
指標値の動向（→その理由）							
<div><div><div>■ 向上</div><div>□ 横ばい</div><div>□ 低下</div></div></div>	スポーツ部門ではスポーツ少年団（3団体）が全国大会に出場したため、人数が昨年に比べ、増えている。 交付者の数自体も年々向上傾向にあり、広報への掲載することにより周知できている。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<div><div><div>□ 拡大</div><div>□ 縮小</div><div>■ 維持</div></div><div><div>□ 改善・効率化</div><div>□ 統合</div><div>□ 廃止・終了</div></div></div>	今後も事業を継続し、市のスポーツ及び文化の振興と発展を図る。 引き続き、奨励金交付対象となる大会やコンクールについて、広報紙を中心に周知していく。						

コストの推移						
項目	R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込	
事業費						
計	2,126	2,686	2,639	3,080	3,080	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	
一般財源	2,126	2,686	2,639	3,080	3,080	
正職員人工数（時間数）	186.00	756.00	498.00	0.00	0.00	
正職員人件費	717	3,178	2,115	0	0	
トータルコスト	2,843	5,864	4,754	3,080	3,080	

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		市スポーツ少年団補助事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと		計画期間	昭和57年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業(取組)	スポーツを楽しむ環境づくり		市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100501-05 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 補助金を交付することで、スポーツ少年団が部会単位で開催する各種スポーツ大会、技術講習会等の運営費及び守谷市の代表として出場する全国大会等遠征費を助成する。 また、市内及び近隣自治体スポーツ少年団との交流会を実施することで、単位団相互の交流を深め、親睦を図るとともに、子どもたちの体力、精神面の健全な発達と集団の中での協調性を養う。 〔スポーツ少年団数〕21単位団（令和7年1月現在）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
各種競技の普及・発展、競技力向上と各少年団間の交流を目的に活動するスポーツ少年団本部の自主的な事業を支援し、青少年健全育成と児童の体力向上に寄与する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】団員数は微増しているが、各種目内での大会等が多く、年一回の交流会実施が困難になりつつあり、単位団相互の連携や協力が希薄になっている。参加単位団も固定化しており、参加者数も減少傾向にある。 【課題】スポーツ少年団の目的にある「スポーツを楽しみ、協調性や創造性を養うとともに、社会のルールや思いやりの心を学ぶ」ことを達成できる方策を再検討する必要がある。	実施済の活動内容 4月：会報誌を通じた活動内容等の周知 4月～6月：守谷市交流大会の内容検討 今後の活動 10月：年度内に1回実施 定期的に活動する内容 単位団活動の支援（県大会・関東大会・全国大会出場に係る経費補助含む） 指導者養成講習会参加費の支援
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
【交流機会の提供・実施】団員同士の交流だけを考えるのではなく、指導者間の交流、オンラインコンテンツを使用した交流などより広い視点で考え実施する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	引き続き、スポーツ少年団運営費の助成や県大会、関東大会、全国大会に出場するチームに必要な交通費相当を交付する。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
【現状・問題】団員数は微増しているが、各種目内での大会等が多く、年一回の交流会実施が困難になりつつあり、単位団相互の連携や協力が希薄になっている。参加単位団も固定化しており、参加者数も減少傾向にある。 【課題】スポーツ少年団の目的にある「スポーツを楽しみ、協調性や創造性を養うとともに、社会のルールや思いやりの心を学ぶ」ことを達成できる方策を再検討する必要がある。	地区予選を勝ち抜き、県大会以上の大会に出場するチーム及び個人の遠征費にかかる補助金を交付し、活動を奨励した。 市スポーツ少年団本部は、各専門部会への育成強化費に加え、公認スポーツ指導者講習会の受講を促進するため講習会を主催し、受講料等の費用負担を支援した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
市内のスポーツ少年団数（団体）	23.00	21.00	21.00	21.00	21.00	0.00	21.00
団員数（人）	547.00	533.00	477.00	490.00	539.00	0.00	650.00
指標値の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	少年団数は横ばいである。各少年団の活動PRにより活動内容が認知されたため、団員数が増加したことが考えられる。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	引き続き、県大会以上の大会に出場するチーム及び個人の遠征費を助成する。 市スポーツ少年団本部が主催する公認スポーツ指導者講習会を支援し、指導者資格取得を促進する。 市広報誌、市スポーツ協会ホームページ及びスポーツ少年団だよりで各少年団の活動PRを行い、団員数増加を目指す。					

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	2,477	1,439	2,198	4,192	2,200
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,477	1,439	2,198	4,192	2,200
正職員人工数（時間数）		28.00	53.00	26.00	0.00	0.00
正職員人件費		108	223	110	0	0
トータルコスト		2,585	1,662	2,308	4,192	2,200

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		学校体育施設開放事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと		計画期間	昭和55年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意的事務
	基本事業(取組)	スポーツを楽しむ環境づくり		市民協働	その他
予算科目コード		01-100502-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市立学校体育施設開放条例 守谷市立学校体育施設開放条例施行規則	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 市民のスポーツ・レクリエーション活動及び体力づくりの場として学校体育館やグラウンドを学校教育に支障のない範囲で開放している。 。 半年ずつ使用更新する定期使用と、随時受付する臨時使用があるが、使用に当たっては事前登録申請が必要である。 [開放場所] 小学校体育館・グラウンド、中学校体育館・格技場・卓球場
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民がスポーツをすることで、市民の健康増進を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】施設数が少ないため、定期使用団体が飽和状態にあり、臨時的に使用したい団体への貸出しが困難になっている。（免除団体が長時間占有する傾向にある） また、空調リモコン盤（7～9月期間のみ）の鍵の管理を各団体に任せているため、管理上、安全性に欠けている。 【課題】備品の数や劣化度等の状況を調査し、修繕・更新等必要な対応を行う必要がある。 受付台帳が紙媒体であるため、管理が煩雑になっており、申請受付及び文書発送事務等を電子化する必要がある。	実施済の活動 4月～ 各体育施設の調査・マニュアル作成 4月～ 使用状況の調査、使用条件の検討 4月～ 受付台帳の電子化 今後の活動 9月～ 空調課金システムの導入検討
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
【使用条件の再検討】使用時間の制限や料金設定の見直しを検討することで、長時間使用を抑制する。 【備品管理】各施設の備品状況を調査し、備品管理マニュアルを作成する。 【業務の電子化】メールアドレスの報告を義務化し、使用中止日等の事務連絡を電子化する。 受付台帳をシステム上で管理することで申請受付事務の簡素化・効率化を図る。 空調課金システムの導入を検討し、空調の適正使用を図る。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	使用備品等の購入、備品修繕等、今年度同等の経費が必要となる。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
各施設にキーボックスを設置することにより、鍵の管理を一元化することができた。安全性が向上した。 熱中症対策として、空調の貸出を検討するにあたり、運用方法、料金 の設定などが必要になる。	取組・評価 熱中症対策として、各小中学校の空調を貸出した。そのため、夏季期間で熱中症により倒れたなどの報告を受けることはなかった。 体育施設使用料の支払いを公金払込書（紙媒体）で行っていたが、守谷市公共施設予約システムからの支払いを推奨することにより、ほとんどの団体が電子決済で支払いを行い、ペーパーレス化を推進することが出来た。 課題 学校備品の無断使用により、学校とのトラブルがあった、特定の備品

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
登録団体数（団体）	130.00	128.00	129.00	153.00	165.00	0.00	131.00
延べ使用回数（回）	5,570.00	9,376.00	11,093.00	14,969.00	16,523.00	0.00	11,870.00
指標値の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	部活動の活動時間が制限されたことにより、中学生とその保護者が団体を設立したことにより、定期使用、臨時使用ともに使用を希望する団体数も増加した。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
□ 拡大 □ 縮小 □ 維持	■ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	体育施設を行うにあたり、空調の無断使用や施設の鍵を複製する事案が発生したため、鍵の貸出を強化し、スマートロック等での管理を検討する必要がある。 使用希望団体が増加し、特定の団体以外、使用しづらい状況にあるため、公平性を保つため、使用制限等を設ける必要がある。					

コストの推移						
項目	R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込	
事業費	計	349	270	258	588	588
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	349	0	0	0	0
	一般財源	0	270	258	588	588
正職員人工数（時間数）		630.00	2,531.00	1,204.00	0.00	0.00
正職員人件費		2,429	10,640	5,112	0	0
トータルコスト		2,778	10,910	5,370	588	588

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		守谷ハーフマラソン開催補助事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと		計画期間	昭和59年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業(取組)	スポーツを楽しむ環境づくり		市民協働	補助事業
予算科目コード	01-100501-08 単独		根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>マラソンを通じて市民相互の交流と、市の知名度向上を図るため、昭和59年から実施している大会に対する補助事業として開始した。</p>	<p>令和7年2月の大会から、市・市教育委員会・市スポーツ協会・茨城陸上競技協会で構成する実行委員会により大会を主管することで、市補助金、参加費、企業協賛等の財源に加えて、民間助成金の活用により開催する。</p> <p>日本陸上競技連盟公認コースで、茨城陸上競技協会の公認大会となっているハーフマラソンと5kmの男女年代別の種目を設定し健脚を競い合う。</p> <p>運営係員は約800名で、スポーツ協会会員、スポーツサポーターなど多くの市民ボランティアの協力を得ている。引き続き、全国から訪れるランナーへのおもてなしの意識を市全体に定着させ、ソフト面により充実した大会となるよう取り組む。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>「守谷ハーフマラソン」への参加により、幅広い年齢層の人々に健康増進をもたらすとともに、全国からの参加者に守谷市の素晴らしさをPRする。</p> <p>また、大会運営に多くのボランティアが参加しており、市民相互の交流を深める機会になっている。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>市民がスポーツを楽しむ機会を提供し、及び市内における賑わいを創出することに努める。</p>	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
<p>【現状・問題】コロナ禍で休止していた小中学生の部門について復活要望が出されているが、参加費の充当を主とした大会運営に限界がきている。</p> <p>【課題】参加者は上限数で推移されており、企業協賛金を含めた大会運営経費の確保が課題である。市を含めた実行委員会を運営主体とすることを視野に入れ、民間助成金等の活用を検討する必要がある。</p>	<p>実施済の活動内容</p> <p>5月 運営委員会において通常開催決定</p> <p>8月 大会概要決定</p> <p>今後の活動内容</p> <p>10月 大会エントリー、ボランティアスタッフ募集</p> <p>11月 協賛企業回り</p> <p>1月 参加賞等事前送付</p> <p>2月 守谷ハーフマラソン開催</p> <p>3月 次年度に向けての事業内容検討</p>
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
<p>【民間助成金の活用】市と市スポーツ協会の共催事業とすることで、toto（スポーツ振興センター）の助成金が活用できるため、運営体制の見直しを行い、助成金を申請する。</p> <p>【小中学生の部再開】高校生以上を対象としたハーフマラソンの部と5kmの部に加え、新たに小学生から中学生を対象とした1マイルレースを開催する。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input type="checkbox"/>増加</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>維持</p> <p><input type="checkbox"/>削減</p>	<p>新種目採用やマラソンコース変更によるゴール集計業務、会場設営費、人件費等のコスト増が見込まれるため、現状の運営費用（補助金）を維持する。</p>

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
令和4年度大会の反省点等を集約し、改善案を実行したことでトラブルを減らすことができた。 物価高騰によりゴール集計業務等の委託料が値上がりしているため、民間助成金等の活用を検討する必要がある。	市・市教育委員会と市スポーツ協会の共催事業とすることで、独立行政法人日本スポーツ振興センター（toto）の助成事業を活用することが可能となるため、財源確保に向けて、大会実行委員会組織の再編を図った。 新たに1マイルレース（1.6km）を設け、小中学生の部を復活させたことにより、マラソンを通した世代間交流が図られた。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
ハーフマラソンエントリー数（人）	0.00	0.00	3,584.00	4,286.00	5,197.00	0.00	5,000.00
運営スタッフ（ボランティアスタッフ含む）の数（人）	0.00	0.00	804.00	891.00	793.00	0.00	800.00
指標値の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	小中学生を対象とした1マイルレースを開催したことにより、エントリー数が増加したことが要因と思われる。 ボランティアの高齢化により、スタッフの確保が困難になっている。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	守谷ハーフマラソンを開催することで、地域経済の活性化、観光振興、市民の健康増進など多くのメリットがあるため、継続・発展に向けて、資金調達、人材育成、地域との連携や市民の関心など様々な課題に取り組む。 昨今、道路環境の変化により、日本陸上協議連盟が定める規定に基づくコース距離の誤差が生じている。計画的に計測作業を行い、普段は走ることができない守谷トンネルやつくばエクスプレスと並走できる解放感あふれるコースを維持していく。					

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	3,000	3,500	8,000	8,000	8,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	6,311	0	5,000
	一般財源	3,000	3,500	1,689	8,000	3,000
正職員人工数（時間数）		808.00	573.00	685.00	0.00	0.00
正職員人件費		3,116	2,409	2,909	0	0
トータルコスト		6,116	5,909	10,909	8,000	8,000

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		スポーツによる地域活性化推進事業		担当課 生涯学習課
総合計画	政策	ひと	計画期間	平成15年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業(取組)	スポーツを楽しむ環境づくり	市民協働	事業協力
予算科目コード	01-100501-07 単独	根拠法令・条例等	スポーツ基本法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
国（スポーツ庁）が推進するスポーツによる地域活性化施策と連携し、市民生活の質の向上や健康増進、さらに、地域の特色を活用した交流の創出を狙う取組を充実させることを目指して開始した。	1 各種スポーツ大会 市スポーツ協会への委託により、軟式野球大会、パドミントン大会、バレーボール大会、バスケットボール大会、ソフトテニス大会、テニス大会、ソフトボール大会、グラウンドゴルフ大会及び卓球大会を、市スポーツ協会との共催により、チャリティーゴルフ大会、守谷リレーマラソンを開催し、参加者相互の交流と親睦を図る機会を提供する。 また、2019年茨城国体を記念し、常総市・坂東市と共催で、茨城県中学校ハンドボール大会を開催する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	2 スポーツ教室・交流体験 子どもの体力、コミュニケーション能力を育むため、児童向け遊びプログラムを、正しい体の使い方を学ばせたいという保護者のニーズを踏まえ、専門的な知識を有する事業者による走り方教室等を実施し、運動・スポーツの楽しさを伝えつつ、子どもの体力低下や身体機能低下を改善する。 また、親子で参加することで、一つの動作についても段階を踏んでいくことを学んでもらう。
（参考）基本事業の目指す姿	
市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】全国的に成人の運動・スポーツ実施率の向上が課題となっている。その世代を対象にした教室・催しを開催するが、参加率が低い。 【課題】特に、子育て世代の運動・スポーツの機会提供と習慣化の促進を図るため、ニーズを知る必要がある。また、子どもたちに走り方・投げ方の動作など、正しい体の使い方を教える必要がある。 スポーツと景観・環境・文化等の地域資源を掛け合わせ、スポーツを戦略的に活用し、地域活性化につなげる必要がある。	実施済の活動内容 4月～ 毎月第1日曜日（守谷駅西口広場）「ふるさと都市もりや朝市」で、パラリンピック正式種目ボッチャの体験会の開催 6月～ 各種スポーツ大会の開催 今後の活動内容 10月 スポーツ月間の取組として「あそびバ！（親子参加の運動・遊びイベント）」、「MORIYAリレーマラソン」開催 11月 市内小学校でブラインドサッカー体験会の開催
改善内容（課題解決に向けた解決策）	定期的に活動する内容 スポーツボランティアの育成 スポーツサポーターの活用
【子どもの体力・運動能力向上】 子どもの体力向上、親子向けスポーツ教室の開催により、子育て世代が運動・スポーツに触れる機会提供を企画する。 【運動・スポーツ活動の定着化】 市スポーツ協会、市スポーツ推進委員と連携し、誰もが楽しめるスポーツ「ボッチャ」の普及に取り組み、市民に体験機会を提供する。 【誰もが気軽にできる運動・スポーツ活動の推進】 ウォーキング・ランニング・サイクリングによる市民の体力向上、また、市内外から人を呼び込み、交流人口・関係人口の増加につながるイベントの開催を企画する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	引き続き、誰もがスポーツを楽しめる環境づくりを進めるとともに、市内外から人を呼び込み、交流人口・関係人口の増加につながるイベントを企画する。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
<p>市主催の各種スポーツ大会（9種目）全てを市スポーツ協会に委託し開催した。（グラウンドゴルフ大会は雨天のため、中止）</p> <p>忙しい働き世代（子育て世代）への運動機会の提供が困難であるため、子どもたちと一緒に楽しめるスポーツや運動プログラムの提供を検討する。</p>	<p>市主催の各種スポーツ大会（9種目）の開催を市スポーツ協会に委託したことにより、参加受付から大会運営までの流れがスムーズになった。</p> <p>スポーツ月間に、親子で運動遊びを楽しむ「あそびバ」を開催したほか、正しい体の使い方を身に付ける「走り方教室」、「投げ方教室」、「体操教室」を開催し、子どもの体力・運動能力向上を図る機会を提供した。</p> <p>市スポーツ協会との共催事業「MORIYAリレーマラソン」では、市内外から集まったあらゆる年代構成のランニングチームがレースを楽しみ、大会を通じて参加者相互の交流が図られた。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
スポーツ大会実施数（大会）	4.00	6.00	9.00	9.00	9.00	0.00	9.00
スポーツ振興事業参加者数（守谷ハーフマラソン除く）（人）	326.00	1,356.00	2,630.00	2,677.00	2,743.00	0.00	3,000.00
指標値の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	子どもの体力・運動能力向上につながるスポーツ教室や親子で参加できるスポーツイベントを開催した結果、参加者が増加した。 今後も、市民ニーズを把握し、スポーツに親しむきっかけづくりと運動・スポーツの習慣化につながる取組を行う。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
□ 拡大 □ 縮小 □ 維持	■ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	市民アンケートによると、子育て世代（30歳代・40歳代）のほかに、50歳代・60歳代女性の運動・スポーツ実施率が低く、1年間に全く実施していない方もいることが分かった。あらゆる年代が自然と運動習慣を身に付けられるよう、気軽にスポーツに親しむことができる機会の提供に取り組む。 市スポーツ協会との連携により、これまで市民のみを対象にしてきたスポーツ大会等の開催形態を見直し、市外からの参加者を受け入れるなど、地域活性化、競技レベル向上につながる取組を進める。					

コストの推移						
項目	R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込	
事業費						
計	4,181	4,004	3,648	3,680	3,500	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	1,596	205	156	140	0	
一般財源	2,585	3,799	3,492	3,540	3,500	
正職員人工数（時間数）	1,030.00	1,039.00	797.00	0.00	0.00	
正職員人件費	3,972	4,368	3,384	0	0	
トータルコスト	8,153	8,372	7,032	3,680	3,500	

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		市スポーツ協会補助事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと		計画期間	昭和43年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業(取組)	スポーツを楽しむ環境づくり		市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100501-04 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民がスポーツに親しむことができ、技術の向上、健康増進と地域の親睦・融和を図るための組織として、昭和43年に設立された「守谷市体育協会」に対する補助事業として開始した。 ※令和3年4月法人化により「一般社団法人守谷市スポーツ協会」に組織変更	組織体制及び事業実施体制の整備のため、引き続き、市から事務局職員を派遣する。協会が雇用する事務局職員と連携・協力を図り、収益事業による安定した自主財源の確保や市のスポーツ団体の総括として運営基盤の強化を目指し、協会の自立を促進する。 スポーツ協会を含む民間三者が締結した協力協定により展開する、中学校部活動地域移行に関する業務を監督するとともに、スポーツ振興の核となる人材育成に期待し、総合型地域スポーツクラブの開設を検討・促進する。 また、スポーツ協会が主催する各種スポーツ大会、技術講習会等の活動を助成し、市民がスポーツ活動に参加することにより体力の向上及び健康増進を図るとともに、スポーツ協会及び加盟団体の組織強化を支援する。 [部会数] 22部会（令和6年1月現在） [事務局職員体制] 事務局長1名（市派遣）、他職員3名（専従）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民の健康増進と体力向上のため、各種運動競技の普及発展と競技力向上を目的に活動するスポーツ協会の自主的な事業を支援し、市民交流とスポーツ活動の推進を図る。 また、市が主催するスポーツ大会やイベント等の業務委託、事業協力など体制強化を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民がスポーツをする機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・課題】守谷市スポーツ協会は令和3年設立と発足から間もなく、法人化後の基盤整備として、人材の発掘や育成は自立に向けて必須である。 【課題】組織体制及び事業実施体制の整備に時間を要するため、市は、組織内部又は側面から支援を継続していく必要がある。	実施済の活動内容 4月 スポーツ大会運営業務委託 中学校部活動の地域移行に関する業務委託 今後の活動内容 2月 共催事業「守谷ハーフマラソン」開催 定期的実施する活動内容 事務局職員派遣 事務局職員との連携・協力
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
【組織体制の強化への支援】引き続き、市から事務局職員を派遣する。また、協会が雇用する事務局職員との連携・協力を図り、市委託業務等の収益事業による安定した自主財源の確保や市のスポーツ団体の総括としての運営基盤の強化を支援し、協会の自立を促進する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	事務局運営費、人件費等必要経費を維持する必要がある。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
市スポーツ協会が、スポーツ振興施策を総合的に推進するためのパートナーとして成長できるよう、引き続き、市職員1名を派遣した。市のスポーツ振興事業を計画的に継続するため、実働を協会に委ねる対象事業を選定する必要がある。	市スポーツ協会が、スポーツ振興施策を総合的に推進するためのパートナーとして成長できるよう、引き続き、市職員1名を派遣し、組織の基盤整備及び運営体制の教化に加えて、専従職員（4名）の育成支援を行った。 市スポーツ協会の自立促進及び収益事業の一助として、市民スポーツ大会の運営及び休日の中学校部活動地域移行の管理運営を委託した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
協会会員数（人）	1,484.00	1,704.00	1,624.00	1,787.00	1,748.00	0.00	1,900.00
協会主催事業参加者数（人）	3,233.00	2,298.00	6,637.00	6,548.00	6,744.00	0.00	9,500.00
指標値の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	協会会員数は微減したが、各専門部が運営する協会主催事業の参加対象を拡大（市外在住者可）したことにより、事業の参加者数が増加した。引き続き、市のスポーツ振興に関する重要な役割を担う組織として、育成・支援を行う。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	収益事業による安定した自主財源の確保や市のスポーツ団体の総括として自立を促進し、支援する。各専門部の活性化のほか、会員拡大につながるよう、中学校部活動地域移行と並行し、市と連携して新たな地域クラブの設立支援に取り組むなど、市におけるスポーツ振興の統括団体として、人材発掘、育成を期待する。					

コストの推移						
項目	R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込	
事業費						
計	7,300	18,800	19,600	20,000	20,000	
国・県支出金	0	0	0	0	0	
地方債	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	
一般財源	7,300	18,800	19,600	20,000	20,000	
正職員人工数（時間数）	688.00	32.00	30.00	0.00	0.00	
正職員人件費	2,653	135	127	0	0	
トータルコスト	9,953	18,935	19,727	20,000	20,000	

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		芸術文化振興事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと		計画期間	昭和52年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業(取組)	心の豊かさを育む芸術・文化の振興		市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100401-07 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
市民が行う芸術文化活動の自主性・創造性を尊重し、その活動を促進するとともに、相互の連携・協力の機会提供を通して、担い手の育成及び市における総合的な芸術文化振興の推進を目指して開始した。	1 守谷市芸術祭 中央公民館を主会場として、市文化協会との共催による美術展、若い芽のコンサート、ふれあい茶会、芸能祭を11月に開催する。 2 守谷市美術作家展 市民交流プラザギャラリーを会場として、多くの美術展で入賞・入選されている市内で活動する美術作家の展覧会を開催し、芸術鑑賞の機会を提供する。 3 市文化協会の活動支援 芸術文化活動を通して、市の発展と市民の文化交流に努める市文化協会の活動を支援する。（守谷市芸術祭のほか、講座・教室、コンサート等開催予定。団体数：74団体、会員数：約460名）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民やサークル・団体等に芸術文化活動の発表の機会を提供するとともに、昭和52年に設立された「市文化協会」に対する補助事業を通して、市民が身近に芸術文化に触れることができる環境の充実を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市民が生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場の提供に努める。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】美術展等のイベントがマンネリ化しており、若い世代の参加・来場者数が少ない。 【課題】市文化協会が主体的に運営できる環境を作り、市民目線で行事・イベントを開催する必要がある。 アーカスプロジェクトのメインとなる「アーティスト・イン・レジデンスプログラム」など、スタジオを拠点とした事業を中心に、インナープロモーションにより成果を上げる必要がある。	実施済の活動 5～6月 もりや市美術展開催（市文化協会主催） 8月中旬 もりやNATSUのコンサート開催（公民館主催） 今後の活動内容 11月9日～17日 守谷市芸術祭開催 11月中旬 アーカスプロジェクトオープンスタジオ開催 R6.2月15日～28日 守谷市美術作家展開催 3月 協会及び関係機関との協議
改善内容(課題解決に向けた解決策)	定期的に活動する内容 アーカスプロジェクトの活動支援 市文化協会の活動支援
【守谷市美術作家展】 守谷市美術作家展の一部の運営を文化協会に委託することにより美術展運営のノウハウを取り入れる。会期を例年の9日間から14日間へ延長し、ギャラリートークのイベントを各1回開催する。 第40回の記念として作品の図録を作成し、次年度以降の集客・宣伝に繋げるため会場で無料配布する。 【アーカスプロジェクト】 アーカスプロジェクトの事業を見直し、子どもたちにアートに親しむ機会を提供するため、ワークショップの実施や中学校部活動地域移行との連携について検討する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	アーカスプロジェクト実行委員会（県）から事業継続に係る負担金増加の要望があり、市への還元策として、子どもたちに向けたアート体験事業などの事業提案が成されている。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
<p>美術展等のイベントがマンネリ化しており、若い世代の参加・来場者数が少ない。</p> <p>市文化協会が主体的に運営できる環境を作り、市民目線で行事・イベントを開催する必要がある。</p> <p>アーカスプロジェクトのメインとなる「アーティスト・イン・レジデンスプログラム」など、スタジオを拠点とした事業を中心に、インナープロモーションにより成果を上げる必要がある。</p>	<p>守谷市美術作家展の運営の一部を文化協会に委託したことにより、会期を通して運営がスムーズになった。会期を例年の9日間から14日間へ延長し、ギャラリートークを開催したことで賑わいが生まれ、延べ入場者数も前年度の約2倍となった。また、第40回記念で無料配布した図録が大変好評で、配布の継続を求める声が多かった。若い世代の参加は少なかったため、小中学校への周知、児童・生徒の鑑賞を促す工夫が必要である。</p> <p>アーカスプロジェクトについては、「アーティスト・イン・レジデンス」等の恒例事業の開催となり、市民が参加しやすいイベント等の開催には至らなかった。引き続き、事業改善を要望していく。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
中央公民館ホールを活用した芸術・文化事業開催数（回）	15.00	30.00	47.00	62.00	58.00	0.00	50.00
文化協会事業開催数（共催事業を除く）（回）	8.00	21.00	28.00	28.00	26.00	0.00	30.00
指標値の動向（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 向上</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 横ばい</div> <div><input type="checkbox"/> 低下</div>	市民主導の芸術文化イベント等が定着し、事業開催回数は横ばいとなった。 アーカスプロジェクトは、スタジオを拠点とした恒例事業の開催が主となり、参加者数が増加しない。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 拡大</div> <div><input type="checkbox"/> 縮小</div> <div><input type="checkbox"/> 維持</div>	<div><input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化</div> <div><input type="checkbox"/> 統合</div> <div><input type="checkbox"/> 廃止・終了</div>	公民館の展示スペースを活用し、年間を通して、郷土に根付く美術作家による部門グループ展を開催することにより、市民が優れた作品を鑑賞する機会の増加につながる。また、既存施設の改修に合わせて、美術作品等の展示スペースを設けるなど実現可能なことから実行し、市内各所で芸術文化に触れる環境づくりに努める。 アーカスプロジェクトでは、市民が参加しやすいプログラムの実施や、子どもたちが国内外のアーティストと交流したり、現代アートを知るための企画を取り入れるなど、市内での認知度向上につながる。					

コストの推移						
項目	R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込	
事業費	計	1,779	1,811	7,056	7,203	7,203
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	12	12	12
	一般財源	1,779	1,811	7,044	7,191	7,191
正職員人工数（時間数）		280.00	487.00	173.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,080	2,047	735	0	0
トータルコスト		2,859	3,858	7,791	7,203	7,203

令和 6年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		文化財保護事業	担当課	生涯学習課
総合計画	政策	ひと	計画期間	昭和52年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	法定事務
	基本事業(取組)	歴史・文化資産の継承	市民協働	その他
予算科目コード		01-100402-02 単独	根拠法令・条例等	文化財保護法 守谷市文化財保護条例

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
文化財保護法第190条に基づき、昭和52年に守谷市文化財保護条例を制定し、先人からの優れた遺産である文化財を適切に保護・活用し、未来に伝えていくこととした。	文化財保護審議会の答申に基づき、市内の文化財に関する調査・評価を行い、特に価値の高いものについては、指定（市、県）や記録保存等の措置を講ずる。 指定史跡や天然記念物については、維持管理を行うとともに、埋蔵文化財の所在が見込まれる土地で土木工事等が行われる場合には、事前に試掘調査を行う。 市指定文化財「守谷城址」については、土地を買収し、保護・保存に努めるとともに、新たなコンテンツを加えてニューアルしたデジタルミュージアムを公開し、及びキッズページを作成することで、子どもから大人まで、いつでも・どこでも文化資源に親しめる環境づくりに取り組む。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市内に存する有形無形の文化財を保護し、未来に伝えていくとともに、文化財愛護や郷土理解の心を育む。	
（参考）基本事業の目指す姿	
地域の貴重な文化財を後世に継承し、活用する。	

今年度の分析・次年度の取組（次年度どう改善するのか？）	
事業の現状・問題・課題	具体的内容とスケジュール
【現状・問題】市指定文化財が少ない上に、指定文化財を知っている市民の割合が低い。 【課題】市民（特に若者）に郷土の歴史・文化を広める必要がある。市指定文化財及び史跡を適切に保護・保存していく必要がある。	実施済の活動内容 5月16日 第1回文化財保護審議会 6月22日 第2回守谷の歴史満喫ロゲイニング開催 7月6日・13日 ロゲイニングを通して守谷を知ろう開催 7月～10月 廿三夜尊エノキ樹勢回復業務（全2回） 8月2日・27日 文化財巡視（県指導員による訪問指導） 8月22日 第2回文化財保護審議会 9月3日 市指定文化財調査（浅草寺学芸員による訪問調査） 9月4日 文化財巡視報告会出席
改善内容(課題解決に向けた解決策)	今後の活動内容
【文化財を知る機会の提供】デジタルアーカイブシステムにより歴史・文化財を知る機会を提供するほか、文化財巡りや郷土検定の実施など、子どもから大人まで楽しみながら郷土の歴史・文化に関心を持てるような取組を行う。 【指定文化財の新規指定】指定文化財の巡視や県指導員による訪問指導により保護・保存状況を把握する。市指定文化財候補の美術品数点の調査を実施し、報告書完成次第、文化財保護審議会に諮り、新規指定をする。	定期的に活動する内容 文化財台帳の管理 デジタルアーカイブコンテンツの選定 試掘・発掘調査、指定文化財説明板の修繕・更新
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	ロゲイニングイベントを引き続き開催することに加え、新規指定予定の文化財の周知方法を検討し、守谷市の歴史と文化財により興味をもっていただけるような施策を継続する。

R05年度の評価を受けて、R06年度の取組等	
R05年度の取組・評価・課題	R06年度の取組・評価・課題
市指定文化財が少ない上に、指定文化財を知っている市民の割合が低い。 市民（特に若者）に郷土の歴史・文化を広める必要がある。 市指定文化財及び史跡を適切に保護・保存していく必要がある。	「守谷市デジタルミュージアム」に新たにキッズページを作成し、市内学校に周知した。また、文化財をチェックポイントに設定したロゲイニングイベントでは、図書館やデジタルミュージアムを利用した調べ学習を組み合わせることにより、親子が協力して歴史・文化を学ぶ機会となった。 市内の寺社が所有する文化財の調査を有識者に依頼した。調査報告書をもとに指定候補を絞り込み、教育委員会から文化財保護審議会に指定の可否について諮問した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（R02）	R03年度	R04年度	R05年度	R06年度	R07年度	目標値（R08）
市内の指定文化財件数（有形）（件）	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	23.00	21.00
市内の指定文化財件数（無形）（件）	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
指標値の動向（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 向上</div> <div><input checked="" type="checkbox"/> 横ばい</div> <div><input type="checkbox"/> 低下</div>	教育委員会の諮問を受け、令和7年度の文化財保護審議会にて審議され答申いただくことにより、令和7年度以降、指定文化財の件数が増加することになる。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<div><input type="checkbox"/> 拡大</div> <div><input type="checkbox"/> 縮小</div> <div><input type="checkbox"/> 維持</div>	<div><input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化</div> <div><input type="checkbox"/> 統合</div> <div><input type="checkbox"/> 廃止・終了</div>	新たに指定文化財に指定される3物件を含めて、文化財を広報もりや、市公式サイト上で周知するだけでなく、ロゲイニングに合わせた一般公開や、デジタル化（デジタルアーカイブ活用）することにより、効果的な情報発信に努める。 指定文化財をはじめ、文化財は市民がその歴史や背景を知ることによって守谷らしさを感じられる資源の一つであり、今後の中長期的な文化財の保存には、若年層の認知度・関心や関わりを高めていく必要がある。キッズページに守谷型クイズを取り入れるなど、子どもたちが楽しみながら郷土の歴史・文化に関					

コストの推移						
項目		R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	R08年度見込
事業費	計	639	7,159	10,491	8,182	8,206
	国・県支出金	0	0	4,707	3,209	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	4,816	2,543	3,313	0
	一般財源	639	2,343	3,241	1,660	8,206
正職員人工数（時間数）		496.00	1,056.00	249.00	0.00	0.00
正職員人件費		1,913	4,439	1,057	0	0
トータルコスト		2,552	11,598	11,548	8,182	8,206